

出題分析		
試験時間 80分	配点 100点	大問数 4題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>出題形式は例年通り、マークシート形式+記述問題の出題であったが、2022年度までに出題された大問Ⅳが復活し、総設問数は昨年度より2問多い、31問となった。全体的な分量が昨年度よりやや増加したことで、時間的に読解することが難しくなっただろう。今年度は例年同様どの大問もテーマが専門的であったものの、昨年度より比較的読みやすい文章であった。例年通り、全ての大問において、おおよそ素早く処理できる問題と、吟味を必要とする設問がバランスよく含まれており、要領よく読み進めて素早く設問を処理していく力と、論理的にしっかりと考える力の両方が求められる問題であった。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	長文読解問題 (科学の哲学の伝承) ○行数：53行 (昨年：71行)	内容(不)一致問題、空所補充、並び替え問題からなる読解総合問題。設問数は記述式問題が2問増え、合計10問と昨年度より1問多かった。昨年度と比べると文章量は大幅に減少し、本文理解は比較的容易であった。本問は素早く処理したい大問であった。	標準
II	長文読解問題 (細菌学の意義) ○行数：83行 (昨年：77行)	内容(不)一致、空所補充、主題選択、記述式の和訳問題からなる読解総合問題。文章量は昨年度から増えたが、本文理解は難しくなかった。記述式の和訳問題は専門的知識を要するが、他の設問においては判断に迷うものが少なかった。	標準
III	長文読解問題 (人間の幸福を踏まえた医療の在り方) ○行数：116行 (昨年：93行)	空所補充、内容(不)一致、同意表現選択からなる読解総合問題。昨年度と比べると文章量が若干増えたが、昨年度よりは理解しやすい文章であった。設問は判断に迷う選択肢は少なかったため、正確に本文を理解し、ミスなく解きたい大問であった。	標準
IV	I～IIIの内容に関する内容一致問題	問題I～IIIの全ての英文の内容の主旨に沿う選択肢を選ぶ問題。範囲は広がるが、通常の内容一致問題と同様に、英文I～IIIそれぞれの主旨全てに沿うような選択肢を選ばばよい。	標準

合格のための学習法

慶應義塾大薬学部の入試問題の英文は 1000 語近い分量の長文が 3 題出題されることが特徴である。時間内に解答するため、日頃から読解速度向上に努める必要があるだろう。また内容は例年、自然科学や医療に関連するものが多い。日頃から理系の内容の長文に親しみ、語彙と背景知識を身につけておくことが望まれる。さらに同意語(句)選択問題が毎年多く出題されているので、長文読解の演習を通じて語彙力と文脈把握力の充実に努めたい。